

入選

水と共に生きる

黒部市立清明中学校 二年 吉松 杏

私が初めてイタイイタイ病という言葉を知ったのは小学校低学年の頃だ。私が当時小学校低学年の頃、「イタイイタイ病」という表紙の本を興味半分で手に取り、当時の友達と読んでいた。その本には漢字がびっしり書いてあり文を理解することは難しかったが、イタイイタイ病に実際に感染した人が辛そうな表情をしながら腰をおさえている写真は今でもはっきり覚えていいる。当時幼かった私はその写真を見たとき、きつと強い衝撃を受けたのだらうなと思う。

私が小学校6年生の頃、学校でイタイイタイ病の講演会が開かれた。講演を開いた方は実際に自分の母親がイタイイタイ病に感染したという経験がある方だった。その方は「イタイイタイ病に感染した母親を見るのがとても辛かった」と話しながら涙を流していた。その言葉を聞いてイタイイタイ病は当たり前を奪ってしまう恐ろしいものだと思った。

このような悲劇を繰り返さないためには水質汚染を減らすことだと考えた。だから一人一人が水質汚染改善のために何ができるのかを調べた。そもそも川や海を汚している主な原因は、生活排水ということを知った。だから生活排水をきれいにするためには汚れた水を流さないことが大切だ。そのために、「食事や飲み物は必要な分だけつくる」、「食器を洗う前に、油污れなどはふき取る」などの工夫が必要だ。

他にも「米のとぎ汁は植木の水やりなどに再利用する」、「細かい生ごみは水と一緒に流さずにコンポストに入れて堆肥にする」など、普段ゴミとして処分するものを再利用することで、家計にも地球にも優しく水汚染の対策をすることができる。自分は今回調べた水質汚染対策が全然できていないと思った。私は小学生の時夏休みの宿題でポイ捨て防止ポスターを描いたことがある。残念ながら賞は取れなかったが少しでも「ポイ捨てをすると川や海、地球の環境汚染に繋がるから気

を付けよう」という意識ができたことも水質汚染対策の一つだと思つた。水汚染の対策を調べて終わりではなく少しずつでも実践していきたいと思う。

私はこの水の作文を書きながら、安全で綺麗な水を飲み、日常生活に使っていることが当たり前ではなく、すごく幸せなことだと改めて感じる事ができた。

過去に水汚染が原因で、イタイイタイ病という公害が起きてしまい、とても辛い思いをした人が沢山いると思う。水汚染はとても危なく、簡単に人の命を奪ってしまうこともある。だからこそ、今、沢山の安全で綺麗な水に恵まれていることに感謝して私はこれからも水と共に生きていきたい。